

しもやま

支所だより

Vol.195

下山地区データ(6月1日現在)

人口	4,237 人	(-96)
男性	2,103 人	(-60)
女性	2,134 人	(-36)
世帯数	1,655 世帯	(-15)

※ () は、前年同月比

令和3年7月15日発行



下山地域の観光スポットを紹介！～三河湖～



今回は、下山地区にある観光スポット三河湖を紹介します。

この度、三河湖に珍しい黄色のアヒルボートがやってきました。ご家族、お友達で利用しやすい足漕ぎ式の4人乗りです。また、湖上に浮かぶ釣り堀では釣り竿から持ち帰り用の袋まですべて付いて手軽に釣り体験ができます。

ボート、釣り堀の利用料金等は、以下の二次元バーコードからご確認ください。

この他にも、散策道の先に新しく三河湖パーゴラを整備し、令和2年度に整備した三河湖ブランコ、こいこいベンチと合わせて写真スポットも充実しています。

さらに、近隣にはバーベキューやキャンプが楽しめる場所も多数あります。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止にご協力いただきながら、三河湖の食と自然を満喫してみたいはいかがでしょうか。



三河湖ボート、釣り堀
ホームページ



▲黄色のアヒルボート



▲三河湖ブランコ



▲散策道の先にある三河湖パーゴラ

しもやま支所だよりは、豊田市ホームページからも見ることが出来ます。 <http://www.city.toyota.aichi.jp/>



編集・発行/豊田市役所下山支所/毎月15日発行/〒444-3242 愛知県豊田市大沼町越田和37-1
TEL: 0565-90-2111 / FAX: 0565-90-3344 / E-mail: shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp
地域記者を募集中! あなたの伝えたい地域情報を支所だよりに掲載しませんか!



わくわく事業の補助金交付団体が決まりました

下山地域会議が令和3年度わくわく事業審査会を行い、初交付の4団体含め10団体へ補助金の交付が決まりました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部団体を書類、その他団体を対面で審査しました。

令和3年度わくわく事業審査結果

初交付 団体	団体名	事業名	交付額 (円)
	① しもやまロケットプロジェクト	こどもが育つ☆モデルロケット教室	529,000
○	② しもやまAI活用プロジェクト	A I を活用した獣害撃退システム	492,000
	③ 花一・よらまい会	花山わくわく広場	836,000
○	④ 阿蔵組	須賀神社所蔵 農村舞台襖絵修理	450,000
	⑤ 地域環境整備隊	地域の将来の担い手の育成を目指す事業	800,000
○	⑥ 水曜会	下山地区町名看板更新事業	166,000
○	⑦ 花沢五組支障木整備隊	花沢5組地域内 支障木整備	223,000
	⑧ 大沼まちづくり部 (塚本鳥屋地区)	ロウバイ花木で大沼の四季を彩る景観づくり	132,000
	⑨ 花沢5組環境整備隊	花沢5組地域内 環境整備	210,000
	⑩ 土々目木クラブ	土々目木川河川敷美化事業	167,000
総額			4,005,000



トヨタ工業学園が神殿町で地域貢献活動を実施

6月25日、トヨタ工業学園の学園生61人が地域貢献活動で、神殿地域森づくり会議と共働して神殿町置免周辺の下草刈りを行いました。学園生たちは、厚鎌の扱い方、研ぎ方を教わりながら、急斜面に苦戦しながら一生懸命作業していました。活動後の学園生からは、「自動車産業と林業は、異なる分野と思っていたが、道具の扱い方、安全第一の姿勢などから多くの学びを得た」と他産業との交流で実り多い活動になったようです。



▲取材を受ける学園生(写真左)と神殿地域森づくり会議代表松田氏(写真右)





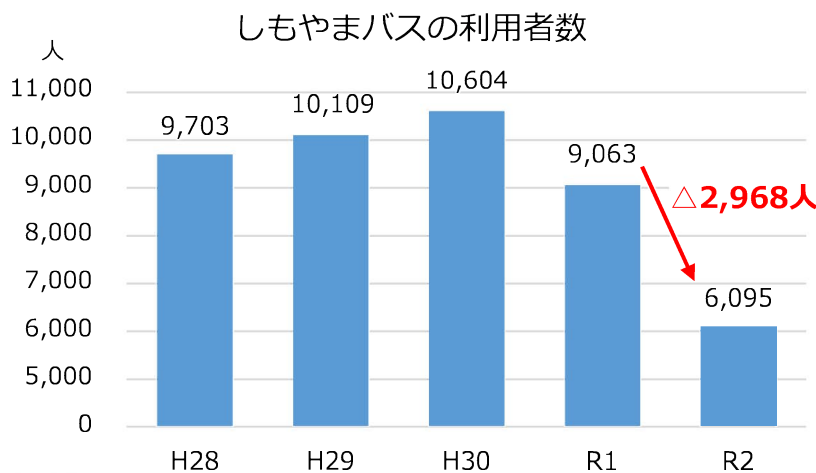
しもやまバス利用のお願い

しもやまバス利用促進協議会



しもやまバス利用促進協議会では、地域の公共交通の存続を目的に、**年間1万人**の乗車を目指して利用促進活動を行っています。しかしながら、令和元年の冬から始まったコロナ禍で、増加傾向であった利用数が**急激に減少**しています。

しもやまバスは下山地域で生活していくために、必要不可欠な公共交通の移動手段ですので、**必要な外出**には安心してご利用ください。感染拡大防止対策として、車体の天井に換気扇、運転席と客席の間に仕切りを取り付け、こまめな車内消毒をして、安心して使える利用環境の整備に取り組んでいます。



▲車体の換気扇



バス停の新設・移設・廃止のお知らせ

しもやまバスのバス停を利用しやすい位置に再配置しました。バス停の新設・移設・廃止などは、下山在住者のご家族でも申請ができます。

ご希望の方は、下山支所、自治区長または組長にご相談ください。



豊田市ホームページ
下山地域バス「しもやまバス」



【廃止】

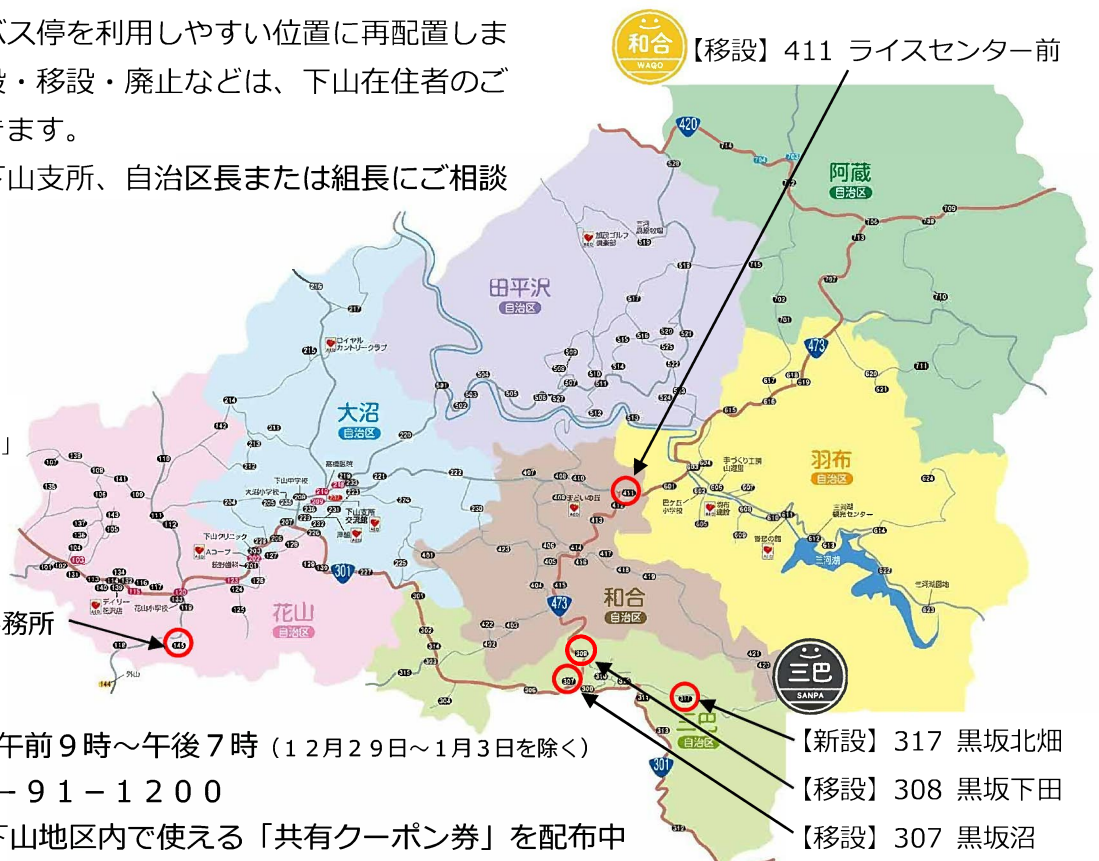
145 西工区工事事務所

【予約方法】

受付時間：平日の午前9時～午後7時（12月29日～1月3日を除く）

TEL：0565-91-1200

※バス利用者に下山地区内で使える「共有クーポン券」を配布中





手づくり工房 山遊里で下山在住者向けのキャンペーン！

羽布町にある手づくり工房 山遊里(やまゆり)は、令和2年に**20周年**を迎えました。これを記念して、下山在住の方に向けた割引サービスを実施しています。ギフト商品も対象になりますので、お中元などの贈答品にもぴったりです。ぜひこの機会に山遊里へお越しください。



【対象者】

WE LOVE しもやまエコバックまたは缶バッジを提示した方

【対象商品と割引】

- ・山遊里で作ったハム・ソーセージ（ギフト商品含む）：5%
※値下げ品などのサービス品は対象外です。
- ・ジェラート：50円引き

【実施期間】令和4年3月31日まで（予定）

【手づくり工房 山遊里】

住 所：豊田市羽布町柿田15-1

電 話：0565-91-1186

営業時間：午前10時～午後5時

（1～3月は、午前10時～午後4時）

定休日：水曜日（祝日の場合、翌日）



大沼まちづくり部会 認知症サポーター養成講座

大沼まちづくり部会は、しもやまマイルプランを地域のみんで進めていくための組織です。

今回の認知症サポーター養成講座の仕掛人である高齢者支援グループのリーダー吉田さんにお話を伺いました。吉田さんは、下山地区の中でも大沼自治区は、「一人暮らしの高齢者が多い」ことに危機感を抱き、この講座を計画しました。

この講座が地域の一員である高齢者の方々も生き生きと暮らし続けられるまちづくり、大沼自治区のみんで「共助」を考えるきっかけになればいいと考えました。吉田さんは、誰か1人に無理させるのではなく、皆が地域の問題を自分事と捉えて向き合えられれば暮らしやすくなると考えています。

講座には、大沼まちづくり部会の部員を中心に14人が参加し、認知症の定義や診断、治療、予防方法、認知症の方への対応について学びました。

大沼自治区の鈴木区長は、「この講座を通じて、認知症の方に対して思いやりをもって見守り、誰もが暮らしやすい自治区ができると思う。今後も区民を対象とした講座を開催していきたい」と話していました。



下山交流館 まなびのひろば

豊田市下山交流館

開館時間 : 午前9時～午後9時
(図書の出借・返却は午後8時まで)

休館日 : 月曜日(祝日、振替休日を除く)・年末年始

連絡先 : TEL0565-91-1650/FAX0565-91-1030

ホームページ : <http://ph-toyota.jp/guide/shimoyama/>

指定管理者 : 公益財団法人 豊田市文化振興財団



ささゆり活動報告

5月23日(日)

講座「ささゆりの芽 赤ちゃんをさがそう」は、緊急事態宣言発出のため中止になりました。ささゆり下山保存会の活動は例年通り行われ、笹と区別するためささゆりの芽に印つけをしました。

今回、印つけに使用した笹竹は「まどいの丘デイサービス」の皆様にご協力をいただきました。ありがとうございました。



▲ささゆり下山保存会の皆さん



▲活動の様子



▲まどいの丘デイサービスの皆さん



なつやすみは
本をよもう!

令和3年度 課題図書一覧

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
あなふさぎのジグモンタ	わたしたちのカメムシずかん	エカシの森と子馬のポンコ
そのときがくるくる	ゆりの木荘の子どもたち	サンドイッチクラブ
みずをくむプリンセス	ぼくのあいぼうはカモノハシ	おいで、アラスカ!
どこからきたの?おべんとう	カラスのいいぶん	オランウータンに会いたい

中学校	高校
ウィズ・ユー	水を縫う
アーニャは、きつと来る	兄の名は、ジェシカ
牧野富太郎	科学者になりたい君へ

貸出期間 2週間
予約取置期間 7日



工事期間中の利用制限について

エレベーター設置・トイレ修繕工事期間中は下記のように利用制限させていただきます。

出入口 → 西側の通用口のみ使用できます。

正面の自動ドアは使用できません。

トイレ → 支所トイレ(平日17時迄)または仮設トイレのご利用となります。

その他、期間中には部屋の利用制限が伴う場合もあります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



ありがとうございます!

大沼地区在住の梶さんに図書室掲示板の飾りつけをしていただきました。

季節に合わせ、鯉のぼりや紫陽花、カタツムリなど来た人を笑顔にしてくれる素敵な飾りつけです。

「えほんのひろば」が明るくなりました♡





疫病退散

祇園祭(送り神)

しもやま支所だより

しもやまの町は、昔は疫病水難除けの守り神牛頭天王の
祈願の祇園祭と、今が、昔は各地区で、麦わら人形を作り、
人形に厄を託して村境へ送る送り神の行事をやっていた。
竹に刺した人形を柱に付けた人達は、村境に立てたら自分の厄がうつりて
来たら、振り向かず一目散に帰ったのだ。

津島には、牛頭天王の総本社があるから、村々の神様は祇園祭りに
集まる村の平安を祈ると言われ、祭りに行く神様を送るのだから
言われる。あの人形は神様の形代と云うのだ。

昔、野原での送り神は、ラッコロボウと呼ぶ。あの人形の首に海
たる一文銭等を村の音が各々かけて村境まで送った。村から津島の
天王祭りへ代参の人が行くので、この銭をこぶかいらしたのだ。
大林(東大林)では、村境は干保塚。振り向くと風邪引いても
さびしく一目散、走ってお宮へ帰ったのだ。

今も祇園のお祭りは、各神社で行われておるが、あの人形を作って
送り神をこぶのは、羽布だけになった。羽布では村の神様が村の
平安と風水害病虫害除けを牛頭天王に祈願するため津島へ行くか
ら、おを送るのだと言われ、又津島では各地の神様に合点の村の
若者の縁結ぶこぶ目かいらと云うのもあるのだ。

また、麦の収穫期、取水たきを神様に上げ、村人は麦の飯を
腹いっぱい食べて、精を上げたと言われ、お。



麦わらの人形は、今年の
麦のわらで、人形に作る。
あらのこみを取って、から
たたくて、細工がすくなくて、
形が出来たら、半紙で顔や
着物の形を貼る時に、
下じの東女域では、馬糞の
前半まで、送り神の
風邪が残って、たまりです。
※羽布野原神社前で見られます。